座談会_仁木町

2023.11.5 20:00 · 60mins

Ｂさん
あんな綺麗にあれなんだねぇ。

Ａさん
綺麗な映像だったよねぇ。

Ｂさん
すごくきれいに映ってるのねぇ。何か細工してるの？

鹿内
全然！（皆笑う）

Ａさん
細工のしようがないよねぇ！でも綺麗な映像だったよ。

Ｂさん
何かね、捉え方がね、景色とかね。

鹿内
でも仁木の景色とかはスマホで撮ったんですよ。休みの日とかに、お母さんと一緒に！
今日はお茶会までありがとうございます。

Ｂさん
何も役に立てませんが…

Ａさん
なんかいいこと言うわねぇ（笑）

Ｂさん
おばあちゃんだもの！（笑）

鹿内
じゃあみなさん自己紹介をしていただいていいですか。

Ａさん：鹿内の実家のご近所の高齢者（仁木町民）

Ｂさん：Ａさんの友人の高齢者（仁木町民）

Ｃさん：40 代女性教員　鹿内の小学時代の元担任（仁木町民）

Ｄさん：先生の娘　▲▲高校生　鹿内の合唱の後輩　女子（仁木町民）

Ｅさん：Ｄさんの友人　▲▲高校生　鹿内の合唱の後輩　女子（仁木町民）

Ｆさん：ＤさんとＥさんの同級生　▲▲高校生　男子（余市町民）

Ｇさん：40 代女性養護教諭・Ｆの母親（余市町民）

鹿内
まず、自由にまず映画どうだったかお聞きしたいんですけど…どうでした？高校生的にはどうでした？（高校生たちに話を振る）

Ｄさん
いや、でも…まったくもって同じ感じだなぁって思ってなんか。やっぱり、仁木ってほんとに…仁木じゃないんですけど、すごい仁木に近しいものをずっと感じてて…えっとコミュニティもちっちゃいし、情報も回るの早いと思うけど、なんか…高校生になってやっぱ…人間関係とか変わったなぁって思うこともあって、共感できるところも結構ありました。

鹿内
なんか高校に行って変わったなって思うのは何が変わったなっていうのは…

Ｄさん
なんだろ…

Ｅさん
いや、でも…だいぶ変わったよね。人間関係がすごい広くなったっていうか…今まではずっと一緒な人達が多かったから。

Ｃさん
6 人しかいなかったから…女の子 6 人のクラスだったから。

Ｅさん
みんながだいたい自分の事理解している感じだったけど、周りみんな知らない人の中で自分を理解してもらう、とかが最初は結構大変だったかなって思いました。

鹿内
余市からきてどう？（Ｆさんに話を振る）

Ｆさん
はい。えっと…感想、ですかね…。

Ｇさん
今の流れで！

鹿内
あっそうそう！感想も！感想もだし…

Ｆさん
あぁ、はい…。僕はやっぱ、余市もまぁ人数はそれこそまぁ多分仁木よりは多いのかなと思うんですけど、それでもやっぱコミュニティは限られてる…小樽とか一人とかみんなで行く機会もあんまないので、でも高校行ってから、ほとんど知らない人で、ほんとに自分のクラスなぜか…僕だけ、あの同じ学校の人いなくて…

鹿内
あっ、中学校どこ？

Ｆさん
小学校ですか？

鹿内
いや中学校！

Ｆさん
中学校ですか？〇〇〇です。

鹿内
あぁ、〇〇〇だったんだ…

Ｆさん
で…最初本当にどうなるかなと思ってたんですけど、まぁなんとかいい感じにやりくりして（皆笑う）、友人もいっぱいできたので、すごい恵まれて…楽しくできてるのかなぁと…よかったです。（皆笑う）

鹿内
なんか逆に仁木に来た時のこと覚えてますか？（Ｂさんに話を振る）

Ｂさん
うーん、あの…いやぁあれですねぇ…いや本当…私嫁の立場でね、おじいさんおばあさんもいたから…あの、二人だけの出発ではなかったのね。で商売してたから…だから、あの誰とでも行き会ったら、もうあの低く頭を下げて（皆笑う）、こうやってね…（頭を下げる動作）

Ｇさん
知らない人ともこうやってね！（Ｂさんと一緒に頭を下げる動作をする）

Ｂさん
余計なことは言わないで、もう嫁嫁嫁！（皆笑う）だから、あの、色々なこと、自分が言うのもおかしいんだけど、色々できても、「できません…」って…

Ａさん
いや本当そうなんだよ！色々できる人なんだけど（Ｂさんを指して）

Ｂさん
（Ａさんをやめてよ！という感じで軽くたたく）本当ご飯もねお勤めしてたからね、あの～…ご飯も炊けなかったの！急にね…あっそんなこと言っても駄目だね、若い人に！あの、お見合いでね、そんな好きだあーだとかじゃないんだよ。もう、手も握ったこともないような、あの三カ月でねお嫁に来たの。（皆えー！と反応）そしたらね、後になってあの私がいうとね、あのうちのじいさんがじいちゃん！親が、あの「お前をもらいにいったから俺は知らん！」って（皆笑う）って言って、おじいさんおばあさんに服従して、本当、嫁！ってそういう、ずっとそうだった。

鹿内
周りも…

Ｂさん
だからあまり…うん仁木に来て…

Ａさん
（手をたたく音）違うわよ！虫が飛んだのよ！（皆笑う）

Ｂさん
お友達、あの、特定のね！この歳になっても、特定のお友達とどっかお茶のみに行くとか、そういうの一切ないのさ！うん。でちょっとお付き合いあるの（Ａさんを指して）Ａさんと料理の、あの、料理なんにもできなかったから、料理覚えたくて、その食生活の改善にはいったわけ…

鹿内
なるほど、それは、改善はサークルとかで…

Ｂさん
あの仁木町であのそういう講習会があって、で、あのほら、減塩減塩って成人病があれの時だったからね、そういう活動、全国的な組織だったの。今でも余市の食生活の…もうやめたのかな…うん…

Ａさん
なんか厚生省のあれだよね、厚生省で…

Ｂさん
ねどっちにしても何もできなくてね、布団屋とお米精米とかそういうのやってたの。して何にもしなくていいからどうぞ来てくださいって言われて来たんだ！（皆笑う）

鹿内
じゃあなんかあんまり、その仁木に来た時は、他の人とは関わらないようにって感じで…

Ｂさん
関わらないように、うんそうなんです！うんうん

鹿内
それはどうして関わらないようにしていたんですか、あまりこう…

Ｂさん
余計なことを、うん。言ったらぜーんぶそっちいっちゃうでしょ？きっと。うんうん、町場と違って（皆笑う）。だからいい嫁でいなきゃって！おかげさまで、おばあちゃんは 100 歳まで、一緒に、おじいちゃんも 90 歳までちゃんとお世話して、そして悲しいことに去年、主人を亡くしました。一年。今一人なんです。だから知ってる人と…あんまり知ってる人いないけど！若い人とつるんで…だから人の一生ってわからないよね、色々…私もサラリーマンの家庭で育ってね、母親はもう小学校 6 年生の時亡くなって、いなかったんです。おばあちゃんに育てられてね、うん。

鹿内
どうでした？今日の映画は？わかりましたか？

Ｂさん
うーんわかったよ、交通事故の子を思って皆、あれなんでしょ？気遣ってね…

鹿内
どうでした？感想的には？

Ｂさん
とっても、ね、映像も綺麗だったし、ストーリーもさ、人間関係っていうのかな（笑）…

鹿内
なんか…これは違うなぁ、仁木とは違うなとか、これは仁木っぽいなとか思ったこととか…

Ｂさん
そんなこと、ない…よね。

鹿内
Ａさんも、どうですか（Ａさんに話を振る）

Ａさん
いやっ…なんだろうね…うーん…（ちょっと沈黙）全員が善意でなんかこう、お話してるんだけど、時々ね、善意を通り、飛び越えた、うん、受け取り方によってはね悪意と感じるね、その話し手としては善意なんだけど、受け取る側とか周りの人達から見ると、ね、飛び越えた、こう、その裏にある言葉の裏にあるようなちょっと悪意があったりとか、そういう、なんだろう…うーん…そういうのがある…なんか知りすぎてる！知りすぎてるから、勝手にみんながねあの子はあーだよこーだよって言うのもね、自分の中で一括りに作っちゃう、そういうのってあるよね。あんまりよくわかってなくても周りの人達からの情報でその人のことを作ってしまうような、そんな場面もあったなぁと、うん。

鹿内
なんかそういうのって、小さい町だから起こるのか、それとも大きい町でも起こるんですかね？

Ａさん
いやっ、そういう小さい町だからとかないか…

（みんなでＦさんＧさんの方をみる）

Ｇさん
大きい町なのかな余市は！？（皆笑う）
いやっ、あの〜…そういうのはあれですよね、私たちはだいぶ世代が違うけど、私たちの世代の時に、小学校・中学校、大体、私も余市でしたけど、小学校も中学校もみんな同じ人たちでこう上がっていくんですよね。そうすると、高校になって外に出たとしても、また余市に戻ってきたら、同じ小学校中学校…って言い方が悪いんだけど、その、うーんと、人間関係がそのまんま残ってるんですよね。田舎で育つと。小学校の時はあいつはこんなやつだった、中学校こんなやつだった、全部それが変わらない、中学校の時に自分が変わったと思っても、変わりたいと思っても小学校のそのイメージから中学校までのイメージって固まっちゃってて…。よく高校デビューっているじゃないですか。でも、隣町に行くぐらいだったら大したデビューにもならないんだけど！（皆笑う）んで、でも、一応小中の人間関係ってのは全部固まってて、外に行って就職して、ね、それこそ結婚して、子どもが生まれてっていう流れでも、ぽっと地元に帰ってきたとしたら、その時周りにじゃあ同窓会集まりました、って言っても、やっぱり小中の時の人間関係なんですよね…。良くも悪くも！変な話…。だから、力関係じゃないけど、うーん、ただそういうの、田舎っていうのは、人として、そう言われた通り（Ａさんを指しながら）、作っちゃってる！ね。変わりたいと思ってもその時その時で変われない、だけど周りは空気の様に、みんな家族の様に、親戚の様な形で、自分たちであの感

じてて、その当時、小学校・中学校の時って割と、周りの人たちに、なんだろ…中学校の時、同級生だけど、そんなに自分の好きな事だって言ってないと思うんですよ、さっきの話、さっきの子達結構ね、あの言われてた通り（Ａさんを指しながら）悪意にもなるような言葉って言ったけど、人を突き刺すような言葉を言ってたじゃないですか。でもあれじゃあ実は中学校の同級生に言ってるかというと、そんなに言ってないと思うんですよ。多分、高校生になって外の世界見ました、それでまた、あの、ちょっと戻ってきました。て行ったらその地元の中の、なんだっけ、近しい距離感っていうのでちょっとタガが緩んで、じゃあその時自分の知ってるその子のイメージをその、その子が知らないことをいいことにって言ったら変だけど、記憶をなくしてることが糧になって、そこでも自分たちが知ったかぶりって言ったら変だけど、言葉的に？言ってしまう。おせっかいも含めてバーッて言っちゃう。悪気は全然ないの。だけど、その距離感がきゅっとこう変に縮まっちゃってる、ていう感じはちょっとなんかして…。それが悪意にもとれるような、そのキツイ言葉だったりかけても自分は全然悪いと思ってないし、だけど、聞いてる本人にとっては何も知らない自分は、すごく辛いですよね、私は何をしたんだろうっていう。なんかそういう戸惑いがすごく伝わってきて…で、私もきっとこうやって、あの歳いってからこう戻ってきた時に、同級生と会って話した時に、じゃあなんだろう、割りとこう、友達…そんなに近しい友達じゃなくても、近しく感じちゃうんですよね！あの、だんだん歳を重ねてふと会った時に近しくなくても「あー！」とかって感じになっちゃったりするから、なんかそういうのでこう距離感ちょっと変わってくるっていうかね、違ってくる、それがまあ田舎なのかなっていう感じがします。いや良いところもすごくあるんですよ！これちょっと今悪いこと言ったけど、いやもう良いところもあって、本当にその、自分を、ことを知っている人もすごく多くて、いいこともすごくあるんだけど、その分ちょっと、あの、さっきのプライバシーもあるけど、気持ち的に、こう…なんだろう気の遣えない部分も出てきちゃったりするかなっていう…。うーん、何言ってるかあれだけど！（皆笑う）何となくね、わかります？なんかね、さっきのこう、これは皆若い人たちだったけど、私達年代を含めると、なんかありますね、そういうの。なんかそんな感じはあるかな？

鹿内
じゃあこれから先…若者勢は戻ってきたら、またちょっと感じ方が…変わるかも

Ｇさん
変わるかもしれない！

Ａさん
変わると思う。だってね小樽の学校に…私もそうだったけど本当に、田舎の、田舎の学校から小樽の学校に通ってね、そうすると、なんか小樽って、小樽の子達って…気性っていうの？うん。仁木の子とは全然違う！あぁ違うなぁって。あの当時私まだ、今 75 なんです。だから、だからもう 60 年も前の話なんだけれども、それこそ高島の、ね、あの当時の髙島ってすごかった！もうオレオレだったの！（皆笑う）えーっみたいな。

ね、だからねもう本当に一括りでいうとカルチャーショックのような感じ、ね。それで割とこう、浜っ子でさっぱりした、っていうの？なんというかなぁ…まあ朝からねおにぎりこんなでかいの作って持ってきてね、あのお家がねなんか魚屋さんで、お父さんと朝４時に競りについて行ってるからってね、朝ごはん当たってないからって、こんな大きなおにぎりを平気で学校で食べたり。仁木だったら絶対考えられないようなことをね！ねっ（皆笑う）本当にね三年間楽しかったんです。だからあなた達もたくさんね、もうそういう地元じゃない、地元から離れて、その、日中だけだけれども地元から離れたその環境ね、愛おしんで暮らしてほしいなぁって思います。絶対いい思い出になるから！

鹿内
私高校時代結構苦しくて、あの〜…今回の映画結構私の実体験にもとづいてできてるんですけど…。私高校時代ちょびっと学校に行けなかった時期があるくらい学校が、そうしんどくて。なんか、それこそ、ちょっとした友達のなんか恋人関係の話を、なんか、別の人としたら誤解が、誤解を招いてって感じだったんですけど、なんかそういうこともあって、私も結構小樽カルチャーショックで…。なんだろうなぁ。なんか、うーん、なんだろうね？（皆笑う）難しいんですけど…

Ｂさん
いじめでもないんでしょ？いじめ。言葉だと思うよ。あの、仁木の子達っていうのはね、こう、思ってもあまり、その…

鹿内
あっ、そうですね。

Ａさん
あまり面と向かってね、言ったりしないけど、あの〜私も小樽の学校行って思ったのね。ずけずけっとね、ずけずけっとね、ハッキリ言うじゃない？言われない？ハッキリ？（高校生に問いかける）

Ｄさん
まあ…そういう人も…

Ａさん
結構ね？びっくりするくらいハッキリ言うところがあるから…

鹿内
なんか仁木の子達は、なんかもう、どんなにその人が嫌いでも、人数が少ないから、まあそれがクラスだけに関わらず、地域の人たちのこともそうですけど、まあこの人はこの人、って受け入れてなんか嫌な事言われても、まぁ…そういう人だなって思うと思うんですけど、なんか多分小樽に行って変わったことは、その嫌なことを例えば私が言っちゃったとして、でも私のことは「こういう子だ！」って思う人ではなくて、「なんか

こういうこと言われたんだけど？」みたいな感じで、こう、言う、言われちゃう？そしたらイメージってついて行くから、どんどん悪い方にだけ、特に私と関わってない人が私のイメージがどんどん悪くなっていくみたいな…感じ…。良くも悪くも？なのかなぁって…思ってたんですけど…。

Dさん
まだ 1 年生でクラス変えとかがまずないので、わかんないけどどうだろう？

Bさん
小樽の学校は服装は自由よね

Eさん
▲▲高校は自由。

Gさん
小樽の人ちょっと怖いっていうよね。こっちは高校は違うけど、小樽でお友達出来た？って言っても「怖い」ってね、そういう気持ちがやっぱりこっちから出ていくとあるのかなって。そういう感じってあるのかなやっぱり。

Bさん
ありましたね。私たちの時も。

Gさん
なんか仲良くなるのが怖いって言うの。なんていうの友達、向こうは向こうで大人数、学校が大きいと思うから、その学校の友達で、何か自分と仲良くなっても、何かそっち側で違うコミュニティで 噂されたりとか、ね、そういうふうな感じで自分が知らないところでさっきの映画じゃないけど、大きく何か変なふうになったらどうしようとかっていうのはちょっとあったんですね。だから、自分の知らないコミュニティで話される自分のことを話されたりとかっていうのに、 なんかちょっとドキドキしてた。

鹿内
確かに…

B さん
人数今少ないからね。

Gさん
そうですよね。

B さん
私達子供育てた頃、中学校でも 3 クラスくらいあったの、仁木で。

Aさん

私の時は４クラスでした。

一同
へえ、すごい

Aさん
やっぱりでも学校が急遽、建て増し建て増しで中学校…
何か突貫工事で建てましたって(笑)
でもねあれですよ、若いときはね、そうだね、いろんなこと悩んだり。やっぱりそれもやっぱりとっても大事なことだし、ひかるちゃんのようなね、あの天真爛漫な子でもつらかったっていうのね、つらい時期もやっぱり必要だと思うんです。

一同
うん、うん、

Aさん
人生ね。全てうまくいくわけでもないしね、つらかった時期も乗り越えてね。また学校に行きだしたりね、それがさ、ずっといけなかったっていうならね、ほんとに大変なんだけど、また頑張って何が、その頑張りを与えたかどうかわからないけど、

Bさん
やっぱりお母さんとか家族に相談したの？

鹿内
そうですね、転校も考えたよね。なんかずっと留学をしたかったんで、もうお父さんとかお金のこととか何も考えてないんで、海外行っちゃえ！みたいな感じで

一同
(笑)

鹿内
でもそのタイミングでその高校のあの留学プログラムみたいなやつに受かってニュージーランドに 2 年生で行くことに決まったんです。

Bさん
ニュージーランドに行ったの？

鹿内
2 週間だけ(笑)でもそれが結構、繋ぎ目ですかね。(笑)

Bさん
やっぱりほらつらかった経験もねそういうことにチャレンジする気持ちにも向かわせたんだからね、悪いことばっかりでもないんだよ。

鹿内
その経験があってのこの映画なので(笑)

Ｂさん
ニュージーランド、合唱団で行ったよ。合唱団に入ってた。

鹿内
そうなんですか？

Ｂさん
うん、旦那のことで3年ぐらい前にやめたけどもっかい入りなさいっちゅうけど…はいらない(笑)

鹿内
3年前くらいだったら多分私達（鹿内、Ｄさん、Ｅさんの所属していた小中学性の合唱団）と一緒に歌ってますよ！

一同
(笑)

鹿内
そうあと、何か気づいたら自分がこのアンケートにもあったと思うんですけど、自分があんまりよく知らないなって自分のことを知られていた経験ってありますか？

Aさん
あるよね。

Ｃさん
学校の先生としては、保護者同士の中で入ったけど、あの先生どうなのみたいな感じではきっと、されてるだろうなとは思うけど、そこにも書いたけど、結局そこまで悪い話はしてるのかもしれないけども、あんまり自分の耳にはそこが入ってこない。かなって多分それは周りが遠慮して言わないで耳に行かないようにしてるのか？なのかなと思って

Ａさん
仁木町は全然そんなことない。耳に全然入ってこない。いや、ずっといるけど。時々とっても親切な方がいて教えてくれるけど。

Ｂさん
全然私自分の悪口聞いたことないよ！(笑)

鹿内
でも何か子供とかだと結構なんだろう、すごい何々ちゃんって声かけてもらうけど、この人誰だろうっていうときがある。(笑)

Ｇさん
友達がさっきＧさんのことなんか知らない人言ってたよって言っても、誰が言ってるかわかんない。お互い面識ないけど相手は名前を知っててみたいなことが学校でもあって…

鹿内
▲▲高校で？

Ｅさん
▲▲高校で。全然面識ないはずなんだけど、相手は知ってるなんか、噂されてるってことじゃないですかそれって。それがすごい怖いなとは思います。

Ｂさん
連れ去られたらたら怖いもんね。何か小学校言われてるんじゃなかった？誰とでも話さないようにって(笑)
だからほら、仁木の子供たちちゃんと挨拶するのね、小学生。おはようございますって言うよ。

鹿内
学校で言われてます。
多分私中学校に入ってから仁木小学校のなんか学校…なんだっけ、学校だよりかなんかで鹿内ひかるさんは挨拶が偉いですみたいな(笑)もう中学生なのに！

Ｂさん
やっぱりあれだよ。町の人に会ったら。だから私行ってらっしゃいって言って。

鹿内
でも仁木だからできる感じします札幌だったらちょっと…。

Ｂさん
駄目だよって言われてるんですよ。連れ去られたら困るから(笑)

Ａさん
でもいいよね。仁木のね、子供たち。優秀な子が多いよね。

鹿内
なんか余市とかどうですか？あんまり知らない人が自分のこと知ってた経験とか。

Ｆさん
町内ではあんまないですね。高校入ってから。そういうのがめっちゃ増えてる。友達と遊んでるときにその友達の別の友達とばったり会ったりとかしたときに、「あ、あのＦくんだ」みたいな感じで。あのっていうのが気になった。あの言ってた人だみたいな感じで、言われたりはたまにしますね。

鹿内
それは悪い意味ではない？

Ｆさん
たぶん(笑)

Ｇさん
ね、インターネットの時代ですからね。

鹿内
なんか札幌で同じように座談会をしたときに、SNS のフォローのリクエストが大した自分はあんまり知らないけど、なんかプロフィール欄に、同じ学校の名前を載せていて連絡が来るから、お互いフォローし合ってて、お互いの投稿を見合っているから、なんとなく知っているけど実際に関わったことのない人が結構多い。っていうのは何か現代のあんまり自分の知らない人に自分が知られているっていう状態なのかなって。

Ｄさん
私は本当に仁木のコミュニティも狭いし、しかもあんまり友達とも喋らないしネットも触らないんですよね。こういう感覚になったことなくて、不思議な感じだなと思いながら今回の映画を見てました。

鹿内
高校は？

Ｄさん
私あんまり人の繋がりも広くないし、しかも仁木のコミュニティは狭いし、ネットはあんまり触らないので、全然わかんなくて逆にあんまり「あの」とかは言われない…。

一同
(笑)

Ｂさん
今そんなこどもさんもいるんだね。それはなに意識して、ネットから離れてるってこと？

Ｄさん
いや、あんまりそういう、人に興味がない…

Ｂさん
こうやってやってんでしょう。学校では禁止されてないのかい？

Ｅさん
そうです。禁止はされてないです。

鹿内
▲▲高校はスマホ持ってってＯＫだよね。
でもなんか昔もなんか今のインスタに近しい感じで、何なんでしたっけ、プリクラをなんか友達とプリクラ交換するみたいなあったんですよ…ね？

Ｄさん・Ｅさん
怖い(笑)

Ｇさん
何かあったと思いますよねプリクラをね、みんなね、写してた時代が一時あったよね。

Ａさん
あるんでしょうね

鹿内
全然、例えば私が写ってないものを、友達のプリクラをもらうみたいな。例えばインスタを写真の投稿を見るみたいな感じで、友達のプリクラを集めるみたいなのをどっかで聞いて、そうやって昔から人の情報を集めているのかなって。

Ｇさん
そういえば入学する前にね、学校同士で、▲▲高校なら▲▲高校で受かった人たちのコミュニティがボーンとできちゃって、だから▲▲高校に受かった人たちのコミュニティSNSができてだから入学する前からなぜか名前は知ってるっていうのが、(笑)わかんないけど、何かありましたよね。

Ｆさん
友達が…

Ｅさん
何かインスタで連絡取ってたよねみたいな。入学してすぐくらいはあった。

Ｇさん
そういうのは結構。こどもたちの世代ですよね。

一同
(笑)

Ｇさん
でも何か入学する前にみんなで顔を合わせる前から何かグループができてるような感じで、すごい怖い感じがします。

鹿内
たしかに。でも私が大学１年生のときなんかはコロナで。

Ａさん
そうね。

鹿内
学校にみんな行けなかった

Ｂさん
かわいそうなんだよね、ホントに…

鹿内
上の学年とも連絡っていうか知り合えなかったので、互いに情報交換とかするために結構 SNS 大学１年生は頑張ってましたね、みんな。じゃないとなんか、お得に単位を取れない(笑)

Ｃさん
情報をね(笑)

Ｇさん
情報を得られないからね(笑)

鹿内
あと何か自分のことを人に話すことに対して抵抗ってありますか。

Ａさん
宣伝はしないかな。

鹿内
なんか宣伝って言っても、例えば何か今こういう悩みがあってとか、最近こういうことがあってとかいう話は？

Ｂさん
若いころからしないかな。

Ａさん
私もしない。人に悩みを相談はしない。なんか人からはね、なんかこうなのよとか何だよっていう相談はされるけど、自分で決めなって言う。だって自分のことだもの。冷たいかも知れない(笑)

鹿内
何かＡさんは何でも相談されてるイメージあります。

Ａさん
そんなことはないけどさ、自分のことは自分で決めましょう。
良くても悪くても…。あんまり相談はしないタイプです。

鹿内
Ｃ先生は？

Ｃさん
何かやっぱりアンケートでも書いたけども、選ぶというか、仕事の話は、同僚には相談するけども、あまり家族とかに多少愚痴ることもあるかもしれないけど、悩みは割と話す方だけども、話す相手はその、仕事の話は同僚にするし、家族とかの話は、本当に親しい友達としかしないと思う。

Ｂさん
仁木町の町内会って、町内会でもほとんど知らない人もいるときもあるよね。新しく入りたがらない人も最近はいますよね、現実的にね。

Ｇさん
私はこどもの頃は玄関に鍵がかかってなくて、家の中に近所の人が勝手に入ってくるんですよ。

鹿内
ええ！家の中に？

Ｇさん
勝手に座って、話をしに来るの。だからこどもの時はなにが悪いかわかんないので、そういうもんだと思ってたけども、今考えたらとんでもない話じゃないですか。ピンポンもなしに、ガラガラって入ってきて。っていうかんじで。でもだから多分日常的に、その、変な話、愚痴だったりとかいろんな話とかはその中でしてたんでしょうけど。それがもう当たり前っていうか近所なら近所で当たり前で、家族みたいな親戚みたいな感じでね。良いか悪いかは別にしてね。でも何かそういうのはだんだんだんだんきっとあれですよね。なくなってきてますよね。

Ｂさん
都会的になってきてるよね。お隣のうちも未だに私が行かないもん。こっち（左隣）は農協だけど、（右）隣はねちょっとあれだけど。

鹿内
なんかでもやっぱりあれなんですかね、結構入ってくる人が多いから。

Ｂさん
そして今はお仕事してる人が多いでしょ？昼間にいないとか。

一同
ああ

Ｂさん
私達ぐらい年配の人たちは、みんな忙しいとき、農家のとこに。トマトもぎとか行ったりしてる人が多いでしょ。

鹿内
確かにそう言われてみれば私も小さい頃Ａさんの家の庭にはおじゃましてましたね。Ａさんと××さんとうちの庭は全部同じ庭だと思ってました。

一同（笑）

Ｇさん
近くのおばあちゃんちとか集まって歩いてましたよね。毎日毎日日課で、おばあちゃんに行って、そこのをショーケースにあるいっぱいちっちゃい、こう、なんちゅうの人形とか土産物とか、入ってるやつを毎日見に行ってチェックして見に行ってたから、そういう近所のおばあちゃんちをこう回って歩くとかね。ちっちゃい頃はそうだった。

Ｂさん
今はおばあちゃんちゃんたちも子供さん来ても、下手にお菓子とかあげられないもんね。

鹿内
それ、なんでだろう？

Ｂさん
アレルギーとかチョコレートとかの甘いもの禁止してますとか、いろいろちょっとやっぱり必ずママに聞いて渡すとして、後でねって言われてすぐそこでねあげないように。

鹿内
どうしてＡさんは私が帰ってくるとき、わかってるんだろうって思って。

Ｂさん
窓から見てるのよ。暇だから。

一同（笑）

鹿内
なんかアカゲラ町に対してどんな印象を持ちましたか？

Dさん
情報の広がり具合が早すぎて。なんかすごい怖かったです。自分にもあったら怖いなって思いながら。だってケガしてすぐにもう町中のみんなは知ってるよみたいな。

Ｃさん
まちの「みんな」はどのくらいのみんなだったのかなって思ったんだけど…

鹿内
なんか仁木町の人に「みんな知ってるよ」って言われたら、「みんな」ってどのぐらいを想像する？

Eさん
私は本当に幅広いです。私の親の仕事が介護とかが多いから、その分ちっちゃい子から高齢の方まで知られてるんじゃないかなって思います。

Dさん
でも私も同じで、父や母の職場関係、そこからもっと知り合いにはみたいな。

鹿内
なんかそれ、その範囲に知られていたことってある？

Dさん
ええ…でも、あんまり意識したことはなかったのかもしれない。

鹿内
なんか、仁木の人って進学とかー

Dさん
あ、確かに…

鹿内
なんかみんな知ってるなって思う。

Cさん
誰がどこに合格しましたとか？

Dさん
今新聞とか出ないものね。

Eさん
昔と違ってね。昔は（新聞で）やってましたよねー。

鹿内
え？誰がどこのって？

Gさん
はい！

鹿内
ええ～

Ｃさん
昔は新聞で自分の合格を知ることがあったよ。

Bさん
あれってすごいことだったんだね。

Bさん
あたりまえのようにね。あれ、あそこの子、ここの高校だった。お祝い持ってかなくちゃって。

Ｃさん
北大とかはテレビで名前が出るんですよね。うん。テレビ番組合格者は何時にみたいに。それで合格を知ったみたい。

鹿内
あ、何かネットがなかったからーみたいな感じですか？

鹿内
恐ろしいですね。進学先とかなんか、それが結構当たり前じゃん。だから、今回この映画を作って、私は就職先が言ってない人に伝わってるのがびっくりしたりとか。

Bさん
就職先？

鹿内
就職が決まったんですけど、うん。それを、何かお父さんが話した人の、その人から聞いた人から連絡来て、ひかるちゃん受かったんだねみたいな。

Ａさん
私はね今回からＢさんを誘うのにひかるちゃんが卒業のためのその映画を作るから。ね。それで NHK に勤めることになったんだよって言ったんだね。それは言ったけどね。

Cさん
え？ＮＨＫに入ったの？

鹿内
あ、はい。NHK に入りました。（笑）

Cさん
ええ、すごい…

Aさん
それぐらいだね、あとは家族でうちの中で夫に受かったみたいだよっつって、それぐらいうちの人もあんまり外では言わないから。

鹿内
なんかあれですよね。それこそ、進学祝いとかの関係で、広まるんですかね？

Cさん
うちの夫（仁木町役場の職員）はやっぱり、いろんなことを、当たり前なのかな、職場仕事上多分いろんなことを知っていて、何々さんって言ったらどこの人って知ってる、あたりまえだけど、私は全然逆にあんまり地域の人たちとそんなに。

鹿内
うちもすごい 4 月になると、あのー、あれ（入学祝いの短冊のし）が並ぶんですよね。

Aさん
短冊ですね。入学祝いの短冊。

鹿内
そう！入学祝いの短冊だけが並んでるから。あれは役場なんですかね？

カメラマン（鹿内母）
あれは役場ですね。

Aさん
でももう昔よりは少ないんじゃない？

Cさん
もう全員ではないですよね。

Aさん
昔は本当にね、もう春になったらこんなにいっぱい。4 月は。そしてね、まだ学校も行ってない子に 1 回間違えて。情報が 1 年早かった。来年だって言って持って帰ったこともありましたもん。

一同(笑)

Bさん
それが上司の人だったら

一同(笑)

Aさん
そうだよね、それぐらいでもほら、役場っていうのはね、守秘義務があるから。そういう職場の中でのお祝い事とかはね別にいいんだけども、町民のことでね、知り得たことをほとんど話さないし、だから噂の出所が役場ってのは少ないと思うよ。うん。

Bさん
あれだもんね。我々やっぱり商売というか農家じゃなくてね、布団や米と言いながらね、やってたから余計なことは言わない。やっぱり町の仕事をやらせてもらってたからね。（町内の）児童養護施設とか障害者支援施設とか、あの、お布団全部子供の布団ね、ちゃんと見せて、柄を見せて小さい子は小さいお布団もね作ったんだよ。そういう取引もやってたりね。仁木町の敬老会の品物全部とか、入札して、毎年 2 年ごとに入札して、ちゃんと正式に登録してあるからね、ずっと仕事それやらせてもらってたの。仁木町のね。

鹿内
じゃ、あれは役場だね。

一同（笑）

カメラマン（鹿内母）
ただの職場の中だけの話。

鹿内
なるほど

Cさん
でも今はだからすごい気をつけてます。その噂が広まるのがわかるから、夫も役場の話とか、何か大事なこととかもちろんしないし、私の学校の個人的な話は。何か校長先生の愚痴とかそういうのは広まってもいい話（笑）

一同（笑）

Cさん
そういうのは広がってもいいわけじゃないけどそういうような話を気軽にするけども、本当に子供の何があったのかっていうのとか、これ広まったらまずいなって話は本当に気をつけるようにしてるし。仕事柄じゃなくても時代もそうだし、どこでどう広まるかわかんないし。

Gさん
ちょっと誰かがつぶやいちゃったらもうアウトですもんね。

Cさん
そうです。もうすぐそういう何か誤解が…。わーって新聞記事とかになっちゃうし、こんな先生がこんなことを子供に言いましたことだけ取り上げられたりするから、すごい気をつける。

Ｇさん
言葉の重みってその時々によってね、タイミングですごい違うけど、うーん…。まあ言葉って今すごく…。どうなんでしょうね。言葉なんかつぶやきなのか、何でもつぶやくのは許されるのか。その重さがうん、その言葉の重さっていうのもすごい軽い感じになってきてるのかもしれないですよね。

鹿内
やっぱりこう、あれなんですかね。仁木の中でも広まらないようにみんなが気をつけていることと、まあ広まってもいいかなっていうものがすごいわけられててっていうかんじなんですかね？

Ｃさん
当たり障りのない話は…人の進路が当たり障りがないかどうかわからないですけど…

Ｇさん
そこはみんな気になるからね

Ｃさん
そのくらいはでもやっぱりしちゃうかも。あの人がここに就職したんだって、よかったねとか…の話は気楽に…。

Ｇさん
悪い話だと思ってないからね

Ａさん
やっぱりそういうのって会話だと思ってるね。やっぱりコミュニ…一種のこうお向かいさんとかお隣さんとの話を進めていく上で、悪口じゃないんだけども、「何かひかるち

ゃんねー就職決まったみたいだよ」って、ほらね、うん。「よかったね」とかさ、やっぱり共に喜ぶ。ね、そういう気持ちはね、あると思うよ。ね。そして、「どこそこさんのおばあちゃん、体調が悪いらしいよ」ってね、それもやっぱり「心配だね」ってご近所ならではのね、お互いに心配し合う、そういうそういう何だろうなっていうのかなー

Ｇさん
コミュニケーションの一つですね。

Ａさん
悪口とかじゃなくって、そういう暮らしの中で、できた人間関係の延長上にあるそういうね、なんか心配してあげたりとか、何もならないんだけども、もうおばあちゃんが具合悪いから、心配だねって一緒になって心配するっていう。そういうのがね、年を取ってきたらね。私、若い頃すごい仁木嫌いだったんです。何か人間関係が濃密で、こっから脱出することばかり考えていて。それなのに仁木で暮らす羽目になって。それで、それでもまだ諦めきれなくって、退職したらね、あの仁木出ようねとか、そういうね、そういう会話をね、結構ね、持ちかけるんだけど全然煮えきらないし。

それどころかね、親の３人も引き取って、うん。有料老人ホームみたいだし、順番にあの世へ送って。うん、うん。まあなんだろうね。そしてこの頃はね、あんなに嫌だった濃密な人間関係もね、ちょっとだけど、うん、いいかなと思うようになったし、それにそのさっきね、小学校中学校の人間関係なっていうのもあったけど、それもこの年になると、なんだろう。残ってる連中で、３ヶ月に１回ぐらい飲んだり食べたりするようにもなったりして。なんだろうね。年を取るってね、いいこともある、うん。

鹿内
安心するんですかね

Ａさん
男の子もみんな込みでワーッと集まって、昔の名前で何とかちゃん何とかちゃんって言いながら飲んだり歌ったりしてます。

Ｇさん
ただ親近感、なんか距離が違うんですよね

Ａさん
なんかね、昔のね思い出話をしたり、うん、あの先生がああだったとかね。ね。いい先生だったねとか、可愛がってくれたよねとか。そんな話も懐かしくてしたりして、すごく今、なんだろうね。七、八人で集まっては、楽しい時間を持ててるので、みんなもいつか必ずそういうときがくると思います。